



道

学校の教育目標
「ともに学び、
心豊かで
たくましい
子供の育成」

本年もどうぞよろしくお願ひします

本年も家庭や地域と手を取り合いながら、「東部っ子」への教育活動をさらに充実したものにできるよう、職員一同努力してまいります。
どうぞよろしくお願ひします。



午年

備えあれば憂いなし

校長 松田 弘人

「10年に一度の…」「今季最強の…」という言葉をよく耳にするようになり、安心・安全な生活を送るために、事前の準備や事後の行動について考えることが多くなってきました。そこで、我が家は年末は地震への対策として棚の中の割れ物や重いものをすべて低い位置に移動したり、部屋やベランダにある使用していないものや読み返さない大量の書籍を処分したりしました。また、大雪等の交通障害も考慮して水や食べ物等を少しばかり備蓄しました。昨今、国内外でも地震や大雨等が頻発しており、家族とともに備えをすることで、安心して新しい年を迎えることができました。

さて、3学期の始業式で子供たちに今年は60年に一度の丙午（ひのえうま）の年で、丙は太陽の光・火、午は火の気をもつ力強い存在という意味があり、どちらも火の性質をもつことから、丙午は火の力を象徴する年とされ、情熱や行動力が高まり、新しいことへの挑戦や大きな飛躍に適した年であるという話しをしました。さらに、次の学年を迎えるまでの3学期間、午年1年間、もっともっと先の未来に向けて、「自分は何をしたいのか、何をすべきなのかをよく考えて少しづつ努力してほしい。」とお願いしました。子供たちには、勉強、スポーツ、習い事、趣味、家や学校でのこと等から自分で頑張ってみたいことを見付け、こつこつと前向きにチャレンジしてほしいと願っています。



〈校内書き初め大会の様子〉

3学期は1年の中で最も短い学期で、6年生は残り34日間、1～5年生は38日間あります。6年生は中学校進学に向けて、1年生から5年生は次の学年に向けてさらに自分の力を伸ばす大切な準備期間です。東部っ子と先生方、ご家族みんなで、残り少ない日々を大切にし、大地を蹴って走り出す馬のように、自分の目標や夢が一気に動き出す3学期、そして1年間となるよう努力していきましょう。

アクションプランの取組経過について（お知らせ）

今年度も、子供たちが、より充実した学校生活を送ることができるように**アクションプラン**を設定し、取り組んでいます。2学期の取組結果をお知らせします。

(1月8日現在)

	重点課題	数 値 目 標	目標達成率
1	進んで本を読む児童の育成	・80%以上の児童が、各学期の設定した学年目標冊数の本を読む。	達成率（全）68.9%
2	しっかりと黙働清掃に取り組む児童の育成	・80%以上の児童が、黙働清掃に取り組む。	達成率（全）83.7%
3	進んで体力つくりに取り組む児童の育成	・80%以上の児童が、毎月げんきっこチャレンジ強調週間に「とやまげんきっこチャレンジ！」に取り組み、コインを年間280枚獲得する。	達成率（全）47.1%

【考察及び今後の取組】

【学習指導】

2学期は、1学期に引き続き、学年ごとに目標冊数を設定し、全校で読書活動に取り組んだ。目標冊数は、1・2年生を40冊、3・4年生を30冊、5・6年生を20冊とし、発達段階に応じた取組みを進めた。その結果、達成率は1・2年生が43.3%、3・4年生が89.5%、5・6年生が74.7%となった。1年生では達成率が低い結果となったものの、もう少しで目標に届きそうな児童が多く、読書への意欲や取組みの継続が見られた。一方、他の学年では、1学期と比べて達成率の向上が見られ、読書習慣が定着しつつある様子がうかがえる。特に、朝活動の時間を有効に活用し、学級単位で図書室に足を運ぶ取組みが広がったことが、読書量の増加につながったと考えられる。しかし、どの学年においても児童間の読書冊数の差が大きく、目標を大きく上回る児童がいる一方で、十分に読み進められていない児童も見られた。

そこで3学期は、一律の目標冊数ではなく、児童一人一人が個々の目標冊数を設定し、自分に合った目標をもって読書に取り組めるようにしたい。目標設定にあたっては、これまでの取組みを振り返りながら、担任と児童が相談して決定することとする。また、担任や支援員による読み聞かせも読書冊数としてカウントすることで、物語に触れる楽しさや、読み進めることへの意欲を高め、読書への関心をさらに広げていきたい。

【生活指導】

1学期に引き続き、2学期も黙働清掃ができた児童が全校の80%以上になることを目標にし、全校で黙働清掃に取り組んだ。あくまでも自己評価ではあるが、低学年での達成率が最も高く92.8%で、中学年が77.9%、高学年が83.8%という結果になった。縦割り班での活動が充実したことや、児童会や高学年からの呼びかけの効果があったのか、低学年は1学期に比べ、落ち着いて黙働に取り組むことができるが増えてきたように感じる。一方、高学年の目が低学年に向いていたためか、目が行き届きにくかった中学年での私語が多くなったと考えられる。高学年では、「下級生に注意をして黙働ができなかった」という理由で目標を達成できなかったと答えた児童が複数いた。

3学期は中学年に役割の自覚をもたせたり、掃除担当場所の教員が意識的に見守るようにしたりしていきたい。児童会からの呼びかけもさらに増やし、全ての学年で80%を超えるようにしていきたい。

【体力つくり】

2学期は、学期間に80枚のコイン獲得を到達目標として「富山県げんきっこチャレンジ」に取り組んだ。日々の運動習慣を数値化し、可視化することで、児童が「できた」「続けられた」を実感できる仕組みとして有効であったと考えられる。結果は、1・2年生が38.1%、3・4年生は79.1%、5・6年生は28.8%となった。下学年ではタブレット操作が負担となり、コインをためるために端末を開くこと自体が難しい場面もあった。そのため、活動量が実際に確保できっていても、記録として反映されていないケースが生じたと考えられる。さらに、児童の到達率にも大きなばらつきが見られた。高学年において数値が低くなった理由として、①学年が進むにつれてコインをためることの意義を実感しにくくなり、記録することへのモチベーションが低下した②高学年では強調週間にに対する意識が十分に高まらず、取組が継続しにくかった、という二点が主な要因であると考えられる。これらの課題を踏まえ、今後の対策として、取組に対する教師からの積極的な声かけ等の奨励や記録する時間の確保を意識して取り組みたい。また、3学期は体力向上だけでなく、健康や生活習慣に関する意欲の向上を活動の目的として児童と十分に共有し、日常的な声かけを通して動機づけを行うことで、学年差による意欲や到達率のばらつきを少なくするとともに、目的と活動がつながる仕組みづくりも目指したい。

今後も一人一人が目標達成できるよう励ましていきたいと思います。ご協力をお願いします。